

拝啓 レノ ン 梅 (詞・曲 入来万作)

夢なんかない 友達もいない
電話はいらない テレビは見ない
政治はわからない 新聞は読まない
貯金はできない 欲しい物はない

毎日 ぼんやり生きているだけ そして
そんな自分を 冷めた目で見ている

後悔はしない 先のことは考えない
他人には厳しい 自分に甘い
子供は苦手 大人は嫌い
おしゃべりは好き 相手はいらない

ねえ シー リッ 聞かせてくれ
今の世の中 悪くはないよね
ねえ シー リッ 笑ってくれ
待ち続けるだけの この僕を ※

バカいなくて ママにも死なれ
一人ぼっちで 落ちこぼれても
自分を信じ 自分のために
戦い続けた あなたは眩しい

ねえ シー リッ 歌えてくれ
こんな僕でも できることってあるかな
ねえ シー リッ 叱ってくれ
迷い続ける この僕を

※ (くり返し)

僕の育った町 (詞・曲 入来万作)

僕が育ったあの町には
大勢の子供が住んでいた
放課後 公園で
日の暮れるまで遊んだ

いつの間にかあの町には
大人ばかりが取り残されてた
僕らの通った学校も
今はもうないそうだ

学校の帰り道
畑でトマトを盗んで食べた
牛乳屋の息子と
よくけんかした

葉の花畑の季節
あじさい通りの季節
とのさまがえるの季節
友達に 皆 元気かな

今度の日曜日 晴れたなら
僕の育った町を見に行こう
僕らの遊んだ公園は
残っているかな

オニヤンマ (詞・曲 入来万作)

デッキの上でおそろいの Tシャツの 君と僕
いつの間にか お天気雨、ちよっぴり 涼しいね

もうすぐ日も 暮れる けど
君は ただ 海 眺めている
僕は 退屈 すぎて
子供みたいに トンボを 追いかける

デッキの上に陳腐風、くしゃみする 君と僕

価値観が 違う とか
考えが 許せない とか
いろいろ言うけど
君といると 楽しいんだ

土曜の午後の港町、そろそろ 帰ろうか

煙草の火照 (詞・曲 入来万作)

こんな夜には、きみの声聞きたくて
公衆電話探してる
旅に出るのもいいだろう、なんて
きみも軽く言うから、可笑しいね

人生はいつだって、思い通りにならない
やっかいなものだね
雨上がりの夜、きみと歌った歌を
憶えているなら、歌ってよ ※

みんな自分のことで手一杯
少年の優しい心は、煙草の煙と消えた

※ (くり返し)

僕の T - R (詞・曲 入来万作)

ママにも内緒で 買ってきちゃった ちっちゃな T・R
夜中 みんな眠ったその後で そっとスイッチ入れたんだ

初めて聴いたビートルズ
真夜中のベッドの中
そこが 僕だけのリスニングルームさ

ママに見つかって 取り上げられちゃった ちっちゃな T・R
ママがお買い物行ってるそのときに
こっそり取り返しちやっただけど

大好きなDJに リクエスト書いた
真夜中のベッドの中
そこが 僕だけのリスニングルームさ

ポケットに入っちゃう ラジオ
AM放送しか 聴けなかったけど

ママにも内緒で すっと聴いてた ちっちゃな T・R
空が明るくなり始める前に そっとスイッチ切ったんだ

冬に借える (冬ノナ) (詞・曲 入来万作)

遊びに行くよ 明日からしばらく
遠くへ 行くから 今から会いに行くよ

悲しい記憶も 色褪せてしまったよ
今では 笑顔で きっと君に会えるから

諦めていた夢だから カバンにつめた そして見えない 場所に隠し続けていた

鍵をかけ忘れたのさ きっといつか 誰かと持ち出して 叶えて
そしてそれが君とならいいな

「電話をするよ 手紙も書くよ たまには返事も欲しいよ」

諦めていた夢だから カバンにつめた そして見えない 場所に隠し続けていた

鍵をかけ忘れたのさ きっといつか 誰かと持ち出して 叶えて
そしてそれが君とならいいな

遊びに行くよ 明日からしばらく
遠くへ 行くから 今から会いに
自転車をこいで バスに乗り換えて 行くよ

EAB (感無し)

ミス・ティアーズ (詞・曲 入来万作)

ミス・ティアーズ 鏡の前で 少し疲れた頬を撫で
呟く 「泣いたりしない」と

ミス・ティアーズ 無理をするなよ 作り笑顔は
なおさら 悲しみ誘うよ

ミス・ティアーズ 誰もがみんな 消してしまいたいような 古い傷
もってるものさ

ミス・ティアーズ もうあの人と 信じあえた
あの頃に 戻れないなら

遠い 昔の過ちを 打ち明けた 馬鹿な女
愛を 信じていたのに 裏切られた 悲しい女

ミス・ティアーズ 寂しさの中 立ちすくむ 君の姿
目に浮かび 胸がいたむよ

ミス・ティアーズ たった一言で 冷める 愛なら
そんなの 愛じゃないはず

遠い 昔の過ちを 打ち明けた 馬鹿な女
愛を 信じていたのに 裏切られた 悲しい女

ミス・ティアーズ 梅やむことない きっといつか
新しい恋に 出会えるはずさ

ミス・ティアーズ 傷つきながら 全てをなくした
君は少し 大人になったのさ

竹青のナメよし、 (詞・曲 入来万作)

春 な の に 情 け 不 い
急に大声出したりして
少しいらいらしてたのかな・

春休みも終わって列車が込み始めたこと
駐車違反で捕まったこと
昨夜の映画がとてつまらなかったこと
お花見 行かない うちに
花びらが 全部落ちたこと

春 な の に 情 け 不 い
最近独り言も多くなったし
休みの日は、ぼんやり過ごしてるし・

つまらない嘘で身動き取れなくなったこと
ズボンが小さくなったこと
おばあちゃんに席を譲らなかつたこと
英語で 道を尋ねられたとき
逃げ出してしまったこと

春 な の に 情 け 不 い
今 何 が 必要なのか
わかっているけれど

僕らの髪型 (詞・曲 入来万作)

あー笑いすぎて 悲しいこと 思い出した

何か言いたいわけじゃない
さりとて、つまらないやつと言われたくもない
そして笑うだけ

たぶん背中はよくはない
その上、ぐれていたというわけでもない
いつも中途半端 意味もなく笑うだけ

紫陽花色のあなたのシャツ
とてもお似合い
笑いながら言われた

あー笑いすぎて 楽しいこと 忘れちゃったよ
あー笑いすぎて 悲しいこと 思い出した

別に悲しいわけじゃない
ましてや 腹を立てているわけでもない
きつと 可笑しいだけ

イメージ通りの髪型です
笑えるくらいカッコ悪いぜ

あー笑いすぎて 楽しいこと 忘れちゃったよ
あー笑いすぎて 悲しいこと 思い出した ※

※ (くり返し)

虫 色 (詞・曲 入来万作)

アスファルトの向こうで子猫が誰かを呼ぶけど
僕はガラスに小石を投げつけている

「もうすぐ雨が降るよ」って声がするけど
多分このままもちこたえるのさ

それは蝉の抜け殻、今朝僕が遠回りして見つけたよ

紫お空が落ちてゴロゴロ雷落とすよ
もうすぐ土砂降り
気の済むまでどうぞ

ポケットの中小銭がじゃらじゃら走ると落ちた
いい人に拾ってもらえとつぶやいた

それは蝉の抜け殻、今朝僕が遠回りして見つけたよ

土の中の生活いったいどんなだったの
夢にまで見たお日様は眩し過ぎやしないか

アスファルトの向こうで子猫が誰かを呼ぶけど
僕はガラスに小石を投げつけている

花束とワイン (詞・曲 入来万作)

世界で 一番大切な女性だよ
この気持 伝えたくて
あれこれ 考えたけど
なんにも できないから
歌でも 歌おう

今度の週末空けておいてよ
君の好きな花束と
ワインを買っていくよ
たった二人だけど
楽しく騒ごう

季節は流れて
お互いに歳とって
しわくちゃになっても
仲良しでいよう

友 達 (詞・曲 入来万作)

生まれつき目の見えないきみに
おかあさんの顔見せてあげたい

ずっと耳の聞こえないきみに
おかあさんの声聞かせてあげたい

その目には映らないけれど
心に光は届いているかい

その耳は感じないけれど
心の声は届いているかい

生まれつき目の見えないきみに
果てなく広い海を見せたい

ずっと耳の聞こえないきみに
小鳥の囀り聞かせてあげたい

この手のぬくもりだけは
ずっとずっと忘れないでくれ

その手のぬくもりだけは
ずっとずっと憶えているよ

生まれつき目の見えないきみに
おかあさんの顔見せてあげたい

製作期間 2006年1月28日～2月26日
録音スタジオ studio 34 (小金井市本町5丁目14-14)
使用ギター 生/MARTIN 00028、エレキ/GRECO EG700
製作 入来万作